



令和2年3月1日

No.93

編集人
公益社団法人
兵庫県精神福祉家族会連合会
新銀輝子〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6階 TEL:078-891-3871/FAX:078-891-3872
Eメール: hyokaren@citrus.ocn.ne.jp オフィシャルサイト: <http://www.hyokaren.or.jp>

みんなねっと近畿ブロック家族の集い in 兵庫 「ひょうかれん創立50周年記念大会」から みえてきたもの

(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会会長 新銀輝子

昨年10月5日土曜日に兵庫県看護協会ハーモニーホールにおきまして近畿ブロックの集いと共に「ひょうかれん創立50周年記念大会」を開催いたしました。天候にも恵まれ実に多くの皆様にお集まりいただきました。本当にありがとうございました。

当日は、兵庫県マスコットのはばタンも登場し、会場の場を和ませて頂き、開会セレモニーの後には兵庫県精神福祉研究会代表の山本敏信様、神戸精神福祉研究会代表の池田りんたろう様、ひょうかれん顧問の多田トモ子様、本條義和様に日頃の功績を讃え、感謝状を贈らせて頂きました。当日の盛大なイベントが大成功に終わりましたのは、この大会に関わってくださった家族会の皆様、またボランティアの皆様の協力無くしてはあり得ませんが、50年と言う半世紀にわたる歴史を積み上げてくださった兵庫県下家族会の皆様の並々ならぬ思いが詰まった大会であったと思います。ひょうかれん家族会会員の皆様、心より感謝申し上げます。

さて、当日は「統合失調症の母を持つ精神科医二人と漫画家のトークライブ」と言う主に子供の立場を中心にライブをさせて頂きましたが、時代と共に家族の構造が大きく変化しているのが見えてきます。家族会の課題は、多様化し、複雑に問題が絡み合い先の見えない不安に疲弊する事もあります。2006年障害者自立支援法制定から精神障害にも福祉の機会が徐々に与えられ、何もなかった時代から少しはサービスの量も増えてきました。しかし、障害者に対する私たちの要望はまだまだ叶えられていません。安心できる医療体制、暮らし、生きがいのある人生設計を実現させる為に必要なのは、やはり粘り強い対話と連携です。一人では出来ないことも経験者としての意識を持って、ひょうかれんも、更に一丸となって邁進致しますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

みんなねっと近畿ブロック家族の集い in 兵庫 / ひょうかれん 創立 50 周年記念大会では、本人の心の叫びを聴きながら、 家族が物語を創るのがいかに大事かを学びました！

昨年 10 月 5 日 (土) の記念大会は、県看護協会ハーモニーホールの立見席も出来るほどの盛況でした。兵庫県及び神戸市議会議員精神保健研究会代表、兵家連の多田顧問、本條顧問への感謝状贈呈の後、『交通運賃割引全国運動プロジェクトチーム』リーダーの奥田様から活動の現状と今後の活動計画について説明がありました。



大会テーマ:『本人の心の叫びを聴き、家族の物語』

つづいて、統合失調症を母に持ち、第一線で活躍されている糸川昌成^{いとかわまさなり}精神科医、夏苺郁子^{なつかりいくこ}精神科医と漫画家の中村ユキ様を招いて、我々兵家連の新銀会長と家族会代表の大倉理事を含めた 5 人でトークライブを開催しました。テーマは、『家族への想いと三人との出会いから伝えたいこと～これからの精神科医療と家族会～』でした。まず、中村先生から統合失調症の漫画の掲載を始める際には、漫画で赤裸々に書くと、逆に統合失調症についての偏見が増加するのではないかとと言う不安があったが、怖いのは知識がないために陽性症状を放置して病気を悪化させたことであり、公開することで、行動の意味が分かった！回復できる病気と分かって安心した！等の反響があり発表して良かったと発言がありました。

次に、夏苺先生からは、『抗精神病薬を飲んだ精神科医はあまりいない』、だから、『私は、薬を飲んだことによる苦しさも知っていますが、やはり、当時は、この薬があったおかげで良くなりました』と言われていました。そして、抗精神病薬は統合失調症治療に必要で、信頼できる医師と相談して上手く使ってくださいと言う言葉が印象的でした。そして、『精神科医の診察態度』を 7000 人以上のご家族や当事者へアンケートした結果、『医者には時間のない中で一生懸命やろうとしてくれているが、そういう医者に辿り着くのに 4 人も医者を変えざるを得なかった人が大変多いという現実が分かりました。そして、殆どの精神科医からの説明が不十分との結果でした。』と言われていました。また、『これからは、薬だけではなく、他の治療方法も併せた医療方針を共同意思決定方式で進めるべきです』との提言があり

ました。又、『人は必要とされると頑張れる』、『病院と仲良くなってください、そして病院長を呼べるような家族会になってください』という発言が印象に残りました。

次に、糸川先生からは、『現在の科学や精神科医療は、数学的に、物質を基にして解明することに邁進してきたが、どうやら、ココロと言うものはこのような数学的モデルでは解明することが出来ないということが分かってきた。環境や歴史等、様々なことが心に影響して結果として出ていると最近思っています』とのことでした。

質問タイムでは、当事者から、『精神障害者は一生治らないと言われて、半分諦めて生きて行かねばならないのか、精神障害者にとって生きていく価値があるのか』、親からは『精神障害者を養う親にも定年が欲しい』、『伊勢田先生の生活臨床について』、『精神科病院での身体拘束について』等、様々な質問がありました。

記録誌のご要望があれば送付します。

第15回兵庫県障がい者芸術・文化祭 令和元年度兵庫県障害者福祉大会

日時

令和元年 11月30日(土) 13:00~16:00

今年の芸文祭は、養父市八鹿文化会館ホールで開催されました。

おめでとうございます



兵家連会長表彰受賞者の皆さん

氏名	住所	所属
庄 政幸	姫路市	はりま福祉会
三村 裕子	姫路市	NPO 法人はりま福祉会 B型事業所
山田 和博	姫路市	ひょうご障害者福祉協同組合
亀谷 美知子	新温泉町	のぎく家族会
伊賀 京子	新温泉町	地域活動支援センターのぎく のぎく家族会事務局
上坂 ひとみ	宍粟市	特別非営利活動法人しさわ 相談支援センターすぎの木
濱田 婦美子	宍粟市	特別非営利活動法人しさわ
伊東 久雄	三木市	NPO 法人そよかぜねっと
長尾 恵子	丹波市	木の根会家族会

兵庫県会議員精神保健研究会からのメッセージ

前代表世話人

山本 敏信

私とひょうかれんとの関わりは、高砂市議から兵庫県議に転身してまもなく、小学校時代の恩師から精神障害者通所施設開設の話を受け、お手伝いする中、岡やすえ議員からの超党派で「精神保健研究会」を、との呼びかけに渡部代表と共に参画することに始まり、その後代表から後を託されました。

ひょうかれん勉強会では、歴代会長らと県障害福祉課・特別支援教育課など調査研究を続け、病院・支援センター・作業所等への視察・見学も繰り返してきました。

障害者自立支援法が施行、先行する知的・身体障害者団体などから施策の一部後退と受け取られ、政権交代などを経て現在の総合支援法になり、障害者・家族のみならず看護・福祉にも施策が拡げられました。

この度、県議7期を迎え、代表世話人を小西隆紀議員に託し、新たな陣容で精神保健研究会を盛り上げていただくことになりました。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



代表世話人

池田 りんたろう

神戸市会議員精神保健研究会からのメッセージ

1969年の創立より、長きにわたり精神障がい者の自立と社会参加の促進を図る啓発活動や広報活動、精神障がい者とその家族に対する相談・支援などに取り組むと共に、日頃から調査研究や様々な政策提言を行っており、精神障がい者とその家族の福祉の増進に対するその多大なご貢献に敬意を表し感謝を申し上げます。

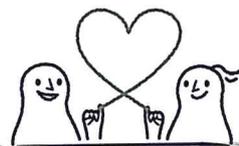
私ども研究会は、神戸市において精神障がい者保健福祉手帳の所持者が年々増加することを受け、精神保健福祉施策は益々重要であり、精神疾患の早期発見と切れ目のない医療へのつなぎ、そして社会復帰に至るまでの一貫した体制整備が必要と考えています。

平成28年に精神障がい者に対する交通運賃割引制度の適用を求める意見書を国に提出し、引き続き保健・福祉・医療・就労に関わる総合的な施策の充実に取り組んで参りたいと考えています。

結びにあたり、兵庫県精神福祉家族会連合会の更なる発展を心からご祈念申し上げます。



トピックス



みんなねっとと愛知県大会に参加して

兵庫県精神福祉家族会連合会 会長 新銀 輝子

2019年11月7, 8日の2日間 愛知県刈谷市においてみんなねっとと愛知県大会に参加してきました。兵庫県からは9名の参加でした。数名は夕方からの懇親会にも参加し楽しい夜のひとときを過ごしました。

会場は駅からも近く広々とした印象で、家族会の方が受付担当、会場整理、弁当の受け渡しなど粛々と行われ気持ちの良い対応をしてくださいました。

1日目の名古屋大学大学院医学系研究科尾崎紀夫教授による基調講演では、統合失調症と言う障害に対しての漠然とした不治の病の印象から、病気と言うより複数の症状を指している総称であるとの見解と「まだまだわからない病気」である事、薬物は症状を抑えているに過ぎないので心理社会療法が必要であるとの見解は、医療だけでなく福祉サービスなどの社会との接点が寛解期への有効な治療であると実感しました。

又、ベルギーにおける移行支援についてと言うテーマで、ベルギー保健省・精神保健改革コーディネーターとしてバナード・イエイコブ氏の記念講演で印象的だったのは、それぞれの立場を統括する誰もが賛成できる目標に向かって、同じ方向で解決策を地道に考え実行していくと言う粘り強い運動がなされているといった内容であったことです。これは私たちの地元の運動においても利用できる方法です。〇〇だから出来ないの思考から、〇〇だが、なら、何が出来るかの思考へ変革するには大変なエネルギーを要します。だからこそ、同じ経験を持つ誰かと語り合い、励まし合い、気付き合う、その様な時間の共有が必要なのだと思います。全国大会でした。

全国大会には毎年行きますが、やはり元気をもらって帰ってきます。まだ、参加した事のない方は、旅行もかねて一度行ってみられてはいかがでしょうか。



「月刊みんなねっと」 購読のお願い

賛助会員（購読料金）の種類と年会費

個人賛助会員 : 3,600 円

団体賛助会員 : 3,000 円 / 人

特別賛助会員 : 5,000 円 / □

兵家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支え、更に発展を促す為に「月刊みんなねっと」購読者の拡大活動を行っています。各地域の家族会が購読の勧誘に参りますので、何卒ご協力の程よろしくおねがいします。

精神障害者の福祉施策充実に関する要望書の回答

※要旨、【】内が県回答。要望書の内容は、「ひょうかれんNo.92」に掲載しています。

“兵家連創立 50 周年記念大会” の成功にご支援ください

1.【本大会は重要な取組と考え協力を行った。今後とも多方面で貴連合会と共同を図っていきたい。】

身体・知的障がいと同等の支援を

2.【交通運賃割引制度について県として公共交通事業者に対し働きかけをした。(R1.10.30) また、3 障害の均衡のとれた制度とするよう、国に対して要望を行っている。】

3.【精神障害者相談員の法制化について、国に対して提案を行っており、今後も引き続き行っていく。】

4.【手帳 2 級の方への医療費助成を行っている都道府県が半数程度に留まっている中、当面は現在の枠組みを維持していきたい。】

精神障がいに対する教育、啓発の促進

5.【「人権教育基本方針」に基づき、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組んでいる。今後も人権尊重の精神を培う取組を進めていく。】

6.【県教育委員会では、地域学習会において障害者の人権課題に対する正しい理解への支援をしている。また、指導主事等に対し資料を提供しており、活用するよう今後も周知、指導していく。】

7.【本事業は、地域における「居場所」「交流の場」として、重要な役割を果たしているものと考えており、引き続き市町に対し事業実施への働きかけを行いたい。】

精神障がい者就労の促進

8.【職親会と連携して IPS モデルを広く周知するとともに、就労定着システムを導入する企業等を支援する制度を創設するよう、国に対し要望を行っている。】

9.【県では、中小企業が事業協同組合を設立する場合や新たに障害者を雇用した場合に助成を行う制度を設けている。なお、相談支援は労働局において実施されている。】

10.【県では、企業セミナー等を開催するほか、企業に資料を配布し、受け入れ体制の整備や啓発に努めている。また、ハローワークでサポーター養成講座等が行われている。】

11.【障害者就業・生活支援センターを中心に職場訪問等による就職後の定着支援を行っており、定着率の向上への新たな支援策も検討中。短時間(週 20 時間未満)就労について令和 2 年度より特例給付金が創設されるため動向を注視し検討していく。】

医療・年金に関する要望

12.【保健師等が家庭訪問を実施するほか、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みを推進しており今後とも、アウトリーチ等の手法による有効な支援施策を検討していく。】

13.【平成 30 年度の精神科病院実地指導において、6 病院に改善対策を求めている。令和元年度も指導を強化しており、今後も調査指導を徹底していく。】

14.【日本年金機構が行う等級判定は、平成 28 年 9 月の制度の見直し以降、判定状況の公表は行われていない。今後状況を注視していく。】

15.【低所得者(市町民税非課税)の自立支援医療費について、必要な医療を継続して利用できるよう、利用者負担の無料化も含めた軽減を行うことについて、国への要望を行っている。】

当事者及び家族支援に関する要望

16.【ピアサポーターとしての活躍の場の拡大へ検討を進めていくとともに、国に対しても雇用促進、安定雇用を図るための制度を構築するよう要望していく。】

17. 当事者とその家族の支援について、健康福祉事務所では、電話や来所のほか訪問活動も行っている。訪問による家族支援については、より良い手法の取り入れ等の検討を進めていく。

グループホーム等退院促進に関する要望

18. 障害者の地域移行については、重要課題として取り組んでおり、第5期兵庫県障害福祉推進計画に基づき計画的に整備を進める。グループホームの開設時には、諸経費を補助することにより地域移行を進めている。

トピックス



これからも地域とともに

特定非営利活動法人あすなる 理事長 藤田 行敏

あすなるも設立から今年で10年が経ちました。設立当初から三田の家族会、西宮など近隣市町の家族会の方の応援を受け活動してまいりました。

精神障がいの当事者に寄り添うことを最大の目標として、主に引きこもりがちな方々への支援を中心に活動してきました。

アウトリーチという手法で出来る限り当事者に寄り添い、一人一人が地域の一員として歩めるよう支援してまいりました。

必ずしも順風満帆ではありませんが、少しずつ、地域に根ざし、地域から期待される存在として活動を続けてまいりました。10年続けてこれましたのも、地域で生活する当事者の方々のおかげであり、陰に日向になり支えつつつけてくださった家族会の温かい声援でした。

精神科訪問看護と相談支援そして就労支援という当時としては珍しい事業形態ではありましたが、今ではそれに加えて宿泊支援を事業に加えた形態が当たり前になりつつあります。

あすなるとしては第一義的に障がい当事者への寄り添う支援、伴走型支援を考えているので、今後のありようとしてはもう少し別のイメージで今後の事業展開を考えたいと思っています。

10年を節目に次なるステップに進んでいこうと思っています。

精神科訪問看護と相談支援は変わりません。ただその中身はピアサポーターを中心とした支援を今以上に進めたいと思っています。

一番の改善点、実現したいと思っていることは(障がい者雇用も含めた)一般雇用です。障がい故の福祉的就労ははっきり言ってナンセンスです。同じ労働者としての雇用保障を実現したいと思っています。

当事者の当事者による当事者のための活動を理想としてこれから進んでいきます。一気にできないかもしれませんがどこかで暖かく見守ってくれる方がいる限り諦めません。

こんなあすなるですがこれからも宜しくお願いします。

投稿

“ひきこもり”断想 ～時代の流れから



編集委員 伊東 久雄 (↑カット筆者)

“ひきこもり死”の現実と背景

過日視聴したNHKTVによると、高卒後浪人して就職したが長続きせず、父の年金に依存して暮らし末期ガンの父が死去、最後は一日食パン二枚のみ、がりがりにやせ、父の遺体と一か月以上同居、30年の引きこもりの末衰弱死した56歳の男性がいた。3年で自殺・衰弱死・死体遺棄が70件超という。「ひきこもり」診療の第一人者斎藤環氏は「社会がこのまま放置すれば、孤独死や衰弱死の大量発生」の時代が来ると警告している。「ひきこもりが多いのは子どもが社会参加できなかった時、親が面倒を見る家族主義の国＝日本・韓国・中国・イタリア・フランスで、米英のような個人主義の国では、そういう子どもはホームレスになるしかない」という(「AERA」19.8.26)。ある当事者は「大学受験ストレスから心に変調をきたし、父にやりたいことを全否定され、つかみ合いに--」(19.6.25記事) このような家族の中の「居場所」の軋轢－愛情と錯覚する「毒親」的支配等と現代の中の生きづらさ～格差社会の働きづらさ、貧困、多忙、組織の縛り、その理不尽さへの怒り、自己実現への絶望やどうしようもなさ等が「ひきこもり」に表されているのでは-----?

未婚の増加、少子高齢化の予想を超える流れ、「ひきこもり」はすぐ隣に。

生き方が問われる

オーストラリアの死にゆく患者の世話を8年続けてきた、ブロニー・ウエアさんが『死ぬ間際の後悔』blogの「死にゆく人々の五つの最も大きな後悔」で、特に私は「自分の思いを表す勇気があればよかった」「友人たちともつとつながりを持つべきだった」(「世界一孤独な日本のオジサン」/岡本純子)に注目する。飼犬でも散歩に連れていかれずに閉じ込められる哀しい吠え声、人間は他人に邪魔されない時間と空間を求め自ら閉じこもる。他方、人とのつながり、対話、愛を求める存在。予期せぬ時代の流れの中で、一人一人の生き方が問われている。

(2019.9.15記)

あなたのご支援で、ひょうかれんは運営されています！

ひょうかれん
賛助会員
募集

年会費

団体の場合 1口 10,000円

個人の場合 1口 3,000円

一口以上、何口でも結構です

振込先 郵便振替 01110-4-83568 兵家連





家族会の活性化について

木の芽家族会 匿名希望

私が所属する「木の芽家族会」は年々会員が増加して、現在正会員が104家族となりました。福祉センターで毎月第二日曜日開催の定例会はいつも満員です。

何故？低迷する家族会がある中、全く精神の病気を知らず日々悩み苦しんでいる家族が各方面から助けを求めて来るのか？一度見学に来てください。

「魅力がありその場で解決の糸口を掴める定例会！！」

- ① 初めて参加されたご家族の苦労話（悩み、不安等）を全員でお聞きし（傾聴、共感、受容）私たちが経験者としてのアドバイスと、定例会参加の専門家にも納得のゆく対処方法を聞きます。
- ② 会員発案による課題別のグループに分かれ、参加者全員が自分の抱えている悩み、苦しみ、思いを発表、討議します。気持ちが晴れます。
- ③ すぐに役に立つ最新の情報が入ります。無償で参加してくださる社労士、司法書士、医師、薬剤師、精神科訪問看護ステーション看護師、施設関係者、PSW、臨床心理士等の方々が私たちの疑問に的確に答えてくださいます。
- ④ 定例会の前には臨床心理士のもと保護者として病気を正しく理解する勉強会や、具体的当事者に向き合うSSTによる訓練を受けることができます。

「相談員活動」（神戸市による家族セミナー、兵家連電話相談！！）

神戸市主催で医師を招き家族セミナー（年2回、1回5コース）が開催されています。セミナーには1回30名のご家族が参加されます。私たち精神障害者相談員も参加者として個別相談を受けています。また、傾聴と緊急時の対応方法を学んだ家族会員は兵家連電話相談も担当しています。

「家族会員全員が主役で、全員が役割を持ち全員が行動する！！」

家族会の主役は家族一人ひとりです。全員の役割分担が決まりその役割の責任を果たします。定例会、家族教室のみならず全員が地区と精神科病院・診療所・訪問看護ステーション等の訪問先に家族会行事のPR活動をしています。定例会には新聞社記者、県・市議員が見学に来られることもあります。

会長、役員はみんなの創意をまとめ見守りますが、主役は家族であり、出すぎるリーダーは組織を崩壊しかねません。木の芽家族会では役員の後継者が次々育っています。



当事者の視点

いこいの場ひょうご
高瀬 建三

『いこいの便り』創刊号の巻頭言を書くことになって、さて何を書こうか迷っています。季節も良いしハイキングの話題でも。行き先は蓬莱峡です。阪急宝塚駅から「有馬温泉行き」バスで約10分、バス停「知るべ岩」下車、尼崎信用金庫蓬莱山荘の橋のそばを下り、川を渡って低木を抜けると座頭谷の堤防に出る。ここから少し歩けば川上に白い砂岩が風雨に削られて、針の山のような尖峰を見せる奇岩群“蓬莱峡”があらわれる。中国の蓬莱山に似ているので命名されたといわれる。この裏六甲の隠れた名所を舞台にして松本清張の「霧笛の町」、黒沢明の「隠し砦の三悪人」が創られた。

私はこの蓬莱峡の堰堤でひとり、汗をかきつつ昼食を摂りながらよく物思いにふけりました。来た道をかえりみながら、山あり谷ありで人生そのものだなと思ひながら。

6月17日付朝日新聞「私の視点」から一事件は社会の病理を映す鏡でもあるから、報道の重要性は言うまでもない。しかし、被害者の人権を侵害してまでも事件の「異常性」や「恐怖性」を強調したり、警察の肩代わりのように加害者のプライバシーを洗い出したような報道は問題である—サンテレビキャスター林英夫氏の投稿の一部ですが、繰り返される報道被害、報道犯罪にこのように訴える報道人に敬意を表したい。

今秋も蓬莱峡への山行を楽しみにしているのですが、確かな視点を持って人生ともども歩みたい。『いこいの場ひょうご』の船出に幸多かれ。

<この文章は『いこいの便り』の創刊号(2001年9月3日発行)に寄稿したものを転載しました。約20年前という歳月を経ながら古びていないのは、私自身が精神障害当事者として遭遇する関連事件の際の「報道犯罪」に感じる「痛み」からでしょうか。それに伴う「二次被害」の深刻さからでしょうか。『いこいの便り』誌は刊行54号を迎えます。>

精神科救急窓口のご案内



精神科救急情報センター

電話番号

078-367-7210

平日：午後5時～翌日午前9時

土・休日：午前9時～翌日午前9時

《平日昼間は健康福祉事務所へ》

◆ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に教えてください。



兵庫県精神保健福祉士協会 PSW

今回もご相談いただいたご家族からの事例をとりあげたいと思います。
なお、守秘義務の立場から内容は若干変更させていただいております。

質問

『息子の相談です。1か月1回の受診をしたりしなかったりする。受診できないときは、母親が薬をもらいに行きます。自宅では引きこもり状態で寝てばかり、何もできない。入浴もしない。本人は入院を希望している。どうしたらいいのでしょうか。』

回答

毎日、息子さんと過ごしておられる御家族としては、お悩みの事とお察しします。しかし、不定期でも受診しているということは、支援者目線になりますが良い点でもあります。

定期受診は状態の把握や薬剤調整等の判断材料を得る機会となります。直接、医師が御本人を診察することは大切で、これは精神科の病気に限りません。ただ、精神疾患で治療が必要な方のなかには病識（自身が病気だという認識）が不十分な方がおられます。御本人にとって『医療の必要性を感じない』訳ですから、医療に繋がりにくいのです。御相談者様の息子さんは、本人が受診する機会があり、医療を必要と感じておられることは良い点なのです。外来受診時、御家族が薬を受け取りに行かれる場合も診察の形式を踏み、家族から観た御本人の日頃の様子を伝える良い機会にしてください。「変わりなし」と定型で終えず、医師に伝えたい事や様子をメモにまとめて準備しておくとも良いかもしれません。

入院の場合も目的は治療や薬剤の調整だけではありません。生活リズムを整えて、退院後の生活を考える機会と捉えてはいかがでしょうか。ただ入院するのではなく、退院後の生活を見据えたサービス等の調整期間という認識が必要です。入院に依存しがちな方には考慮が必要ですが、その心配のある方は主治医や精神保健福祉士と事前に期間や目的を相談してみてください。医療にかかる機会を回復・次の段階に向けてどう活かすかが重要です。

いずれにしろ、現状でも訪問看護の介入や、制度・福祉サービスについて申請・調整が検討できます。まずは関係機関に相談してみてくださいはいかがでしょうか。



お気軽にご相談ください

ひょうかれん電話相談

TEL. 078-891-3886

土・日・祝日を除く平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 15:00

病気の事や経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度（手帳・年金・他）利用の手続きなどについて、県から相談員として委嘱された家族会員や精神保健福祉士などが相談に応じます。ぜひご利用ください。

兵家連活動日誌 2019年9月~12月 役員 の 動き

KSKP 発行人 関西障害者定刊行物協会の郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行 定価 五十円

9月

- 4 (一社)兵庫県精神科病院協会 第54回レク活動発表大会 (姫路市文化センター) (松尾)
- 5 東播磨・淡路地区 精神保健福祉研修会① (あかし保健所 201 会議室) (明石ともしび会家族会)
 - いこいの場ひょうご (県福祉センター) (新銀)
- 9 50周年記念大会第6回 WG 会議 (兼理事会) (県福祉センター) (新銀、浦波、南部、大倉、米、佐伯、山口、新銀茂、石原、田中、松尾、山本、長沢)
 - 公明党政策要望懇談会 (兵庫県教育会館ラッセホール B 1F) (新銀、浦波)
 - 50周年記念大会 トークライブの内容討議 (県福祉センター) (新銀、南部、大倉)
- 11 50周年記念大会に関する大家連事務所訪問 (大家連事務所) (新銀、石原)
- 12 運営監視合議体 (県福祉センター)
 - 東播磨・淡路地区 精神保健福祉研修会② (あかし保健所 201 会議室)
 - 豊田氏来訪 (兵家連事務所) (石原)
- 13 令和元年度第1回県障害福祉審議会(兼 自立支援連絡協議会・障害者差別解消支援地域協議会) (県農業共済会館 4 階会議室) (浦波)
- 20 兵庫県精神保健福祉協会令和元年度定期総会 (兵庫県こころのケアセンター 3F 中研修室) (藤田行)
 - 兵庫県精神保健福祉協会心の健康づくり講演会 (兵庫県こころのケアセンター 3F 大研修室) (藤田行)
- 26 第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」兵庫県選手団団結式 (兵庫県民会館 けんみんホール) (浦波)
 - 但馬地区・こころの病家族教室 (県立但馬長寿の郷) (なんたんひまわり家族会、浦波)
- 29 第31回全国車いすマラソン大会開会式 (丹波篠山市役所前) (新銀)
- 2 10月度運営委員会 (県福祉センター) (新銀、浦波、南部、藤田、大倉、新銀茂、米)
- 3 東播磨・淡路地区 精神保健福祉研修会③ (あかし保健所 201 会議室)
- 4 国民民主党意見交換会 (ラッセホール 5F ハイビスカス) (新銀、浦波)
- 5 兵家連創立50周年記念式典 兼 近畿ブロック家族のつどい (兵庫県看護協会ハーモニーホール)
- 7 障がい者スポーツ競技団体等向け WMG2021 関西 参加促進事業補助金説明会 (県庁 1 号館 5 階南東側 健康福祉会議室) (石原)
- 11 第63回兵庫県知的障害者福祉大会 (相生市文化会館 扶桑電通なぎさホール) (新銀)
- 16 秋の花と緑を愛でる会 (淡路夢舞台・国営明石海峡公園) (新銀、南部)
- 17 東播磨・淡路地区 精神保健福祉研修会④ (あかし保健所 201 会議室)
- 20 中・西播磨地区精神保健福祉研修会 中播磨峰の会 (福岡町エルデホール) (藤田行)
- 21 消防訓練 (県福祉センター) (石原)
- 24 金子社労士、金井社労士来訪 (兵家連事務局) (新銀、石原)
 - 兵庫県スキルアップ研修会打合せ (兵家連事務局) (新銀、事務局)
- 25 園田学園田中教授来訪 (兵家連事務局) (新銀)
 - 神戸市精神保健福祉会合 (市本庁ロビー) (新銀)

10月

10月

11月

12月

- 27 第42回きょうだい会 (県福祉センター) (新銀)
- 31 東播磨・淡路地区 精神保健福祉研修会⑤ (あかし保健所 201 会議室) (公財) こうべ市民福祉振興協会 第9回こころのアート展 オープニングセレモニー (しあわせの村本館宿泊館エントランスホール) (新銀)
- 2 関西青少年サナトリウム家族会 (関西青少年サナトリウム OT 室) (石原)
- 3 第8回ひょうごメンタルケアフットサル大会 (県立障害者スポーツ交流館) (浦波)
- 4 立憲民主党政策要望・意見交換会 (県民会館 7F 会議室鶴の間 (控室：亀の間)) (新銀、浦波、南部)
- 7・8 みんなねっと全国大会兼甲州・東海ブロック大会 (愛知県刈谷市総合文化センター) (新銀)
- 8 但馬地区精神保健福祉研修会 (ロマンハウス家族会) (豊岡市民プラザ) (藤田行)
- 10 阪神南地区・こころの病家族教室 (尼崎中央北生涯学習プラザ) (あまかれん)
- 13 50周年記念大会第7回 WG 会議 (兼第5回理事会) (県福祉センター) (新銀、浦波、南部、藤田、大倉、米、佐伯、伊東、山口、本條、新銀茂、石原、吉井、松尾、山本)
 - 二役会 (会長、副会長) (県福祉センター) (新銀、浦波、南部、藤田行)
- 22 第13回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 (グリーンアリーナ神戸) (浦波)
- 28 いこいの場ひょうご (県福祉センター)
- 29 令和元年度社会福祉情勢セミナー (県福祉センター) (石原)
 - 北播地区 こころの病家族教室 (加西家族会) (加西市社会福祉協議会) (新銀)
- 30 令和元年度兵庫県障害者芸術・文化祭 (福祉大会) (八鹿文化会館ホール) (新銀、南部)
 - 阪神北地区・こころの病家族教室 (むぎのめ家族会) (キセラ川西プラザ福祉棟) (南部、國下、小田垣、小林)
- 3 出田農園来訪 (コメ販売・打ち合わせ) (兵家連事務局) (石原)
- 4 第6回運営委員会 (県福祉センター) (新銀、浦波、南部、新銀茂、石原)
 - 県・相談支援部会 (藤田行)
- 5 兵庫県文書課公益・宗教法人班調査 (公益法人検査) (兵家連事務局) (新銀、石原、事務局)
- 6 令和元年度兵庫県精神科救急医療体制連絡調整委員会の委員委嘱及び委員会 (兵庫県民会館) (河上)
 - 姫路会館予約 (スキルアップ研修の為) 訪問 (姫路会館) (新銀)
- 8 神戸地区こころの病家族教室 (木の芽家族会) (県福祉センター)
- 9 いこいの場ひょうご (県福祉センター)
- 12 第3回兵庫県福祉サービス運営適正化委員会・運営監視合議体会議 (県福祉センター) (新銀)
 - 第15回兵庫県障害者芸術・文化祭実行委員会第2回委員会 (県民会館) (南部)
 - 近畿ブロック (JR 西日本との話し合い)・各県連 (大家連) (浦波)
- 17 東播・淡路地区こころの病家族教室 (淡路市防災安心センター) (いきいき家族会)
- 19 県いのち対策室永田様 相談スキルアップ研修打ち合わせ (県福祉センター) (新銀・事務局)
- 20 国土交通大臣：赤羽国会議員事務所 (神戸) 訪問 (新銀)
- 22 第43回きょうだい会 (県福祉センター) (新銀)
 - ひょうご障害者芸術活動支援センター開設記念セミナー (ラッセホール) (浦波)

編集後記

今は亡き、サトウサンペイという漫画家は、たくさんの連載を抱えていた。原稿に行き詰まると、新しいアイデアを生み出す秘策を三つ持っていたという。一つは、ふらっと旅に出ること。二つ目は、読書。三つ目は、ボルテージの高い人と会うこと。実は、この「ひょうかれん」誌の編集委員は、それぞれの分野で、長年苦労とその実績を積み上げてきた相当なツワモノばかり。ここに来るたびに、私のボルテージもうんと上がる気がする。(代田) 編集委員/新銀・米・浦波・南部・伊東・松尾・代田・石原